知的資産経営報告書2012

URL ： http://www.ohashi-woodworks.jp

目次

１．皆さまへ ・・P３

２．経営理念・・株式会社大橋木工所の使命 ・・P４

３．伝統工芸品の彦根仏壇について ・・P５

４．事業内容 ・・P８

５．沿革 ・・P１０

６．当社の知的資産

概要 ・・P１２

（１） 組織資産

①彦根仏壇職人としての仕事へのこだわり ・・P１３

②受け継がれた木地師の技術・技法 ・・P１４

（２） 人的資産 ・・P２０

（３） 関係資産

概要(非公開情報となります) ・・P２２

①伝統の彦根仏壇等を製造し、 ・・P２３

お客様に届けるネットワーク

②新しい祈りの形を提案する ・・P２６

「柒＋(ななぷらす)」のネットワーク

７．将来展望(非公開情報となります)

（１） 当社の将来ビジョン ・・P２７

（２） 今後の事業展開の方向性 ・・P２８

（３） 将来のビジョン到達までのロードマップ ・・P２８

（４） 今後の事業展開への取組み ・・P２９

８．会社概要 ・・P３０

９．作成者より ・・P３０

１０．問い合わせ先 ・・P３１

１１．知的資産経営報告書について ・・P３２

代表取締役からのご挨拶

株式会社　大橋木工所
三代目社長　大橋和夫
(彦根仏壇木地部門 伝統工芸士)

大橋木工所は、明治４０年に初代萬次郎が高宮で彦根仏壇木地製造業として創業し、今日まで１０５年間、産地彦根仏壇の木地師として仏壇店との共存共栄・信頼関係のもと技術の向上に心掛けてまいりました。

私が職人として仕事に従事したころは、造れば売れるという時代でありましたので更なる企業の基盤を固めるため、平成元年には法人化し、株式会社大橋木工所として現在に至っています。

近年、海外製品の参入や生活様式の変化に伴い、仏壇業界を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。お客様のニーズに対応するために家具調仏壇、モダン仏壇などが市場に出ていますが、自社では伝統的な技法による仏壇造りにこだわってまいりました。業績の悪化に伴い事業規模の縮小を余儀なくして参りましたが、後継者もあるなかご縁ができて「知的資産報告書」を作成することになり、自社を見つめ直す良い機会ができました。

先祖への感謝の気持ちが希薄化するなか、自社の製品が末端のお客様に渡った時、お客様の心のよりどころになって欲しい、そのような気持ちで新たな製品の取組や、今日まで培ってきた木地師としての技術を次の世代へ継承していくと共に品質向上を図っていきたいと思っています。

2．経営理念・・株式会社大橋木工所の使命

○手を合わせる文化の継承

仏壇の起源をひもとくと、仏壇は信仰する宗旨のご本尊を家庭でおまつりするためのものでした。その後、数百年もの時代をへて、仏壇は、ご本尊とご本尊の横にあるご位牌もおまつりするものとなりました。

現在、仏壇は、仏教信者ではなくても、仏壇に手を合わせることで、先祖や亡くなった人への想い・感謝を伝えるという場にもなりました。仏壇は身近なものになりましたが、同時に仏壇と仏教信仰が別のものとなったことで、信仰心として仏壇の存在が希薄化され、仏壇をおかない家が増えました。そのことにより、「手を合わせる文化」まで希薄化されつつあります。

(株)大橋木工所は、それらの状況に危機感を感じています。仏壇職人集団として、仏壇を製作することを通じて、**「手を合わせる文化」**を継承し、**「手を合わせる場として仏壇の意味」**を伝える役割を担うことが使命だと考えています。

○先人が築いた彦根仏壇の伝統の心と技の継承

日常、手を合わせる習慣がない方でも、寺院のご本尊の前に立ちますと、ほとんどの方が自然と手を合わせます。

それは、寺院のご本尊が、寺院と職人が心と技をこめて『ご本尊が存在する理想の世界「極楽浄土」』を再現していることで、自然と手を合わせる力を宿しているからだと考えられます。

形としての仏壇は、寺院のご本尊をミニチュアにしたものあります。その中でも伝統の彦根仏壇は、仏壇職人の匠の技により、寺院のご本尊さながらに極楽浄土の世界が表現されています。

先人が築いた伝統の彦根仏壇は、寺院のご本尊と同じようにその前に立つと、自然と手を合わせる力をもっています。

(株)大橋木工所は、彦根仏壇職人集団として、手を合わせる力を引き出す源である**「先人が築いた彦根仏壇の伝統の心と技」**を継承し続けてゆきます。

３．伝統工芸品の彦根仏壇について

（１）仏壇とは

仏壇は家の中の
寺のような存在

多くの日本人にとって仏壇は、位牌と共に先祖や亡くなった親族をお祀りし、対話をするためのものです。家庭の仏壇は、寺院にある仏壇（内陣）を小型にして、厨子と一体化して箱型にしたものです。ですから、仏壇は家の中のお寺のような存在です。

仏壇は日本独自のもので、仏教への信仰と日本人の伝統的な宗教・習慣である先祖信仰が組合わさったものです。お位牌がお仏壇に置かれているということで、先祖様が仏様や開祖のお力によって浄土に導かれることを祈っている、導かれたことを信じていることを表しています。

（２）彦根仏壇の歴史・沿革（400年以上に渡る歴史）

武具・武器の製作が始まり

彦根仏壇の起源は遠く徳川時代中期とされ、武具、武器の製作にたずさわっていた塗師、指物師、錺(かざり)金具師などが平和産業 としての仏壇製造に転向したのが始まりといわれています。

彦根市のある湖東地域は湖北地方と並び、古くから仏教の盛んな地でした。徳川時代には、キリシタン宗門の禁止政策の強行で、異教徒でない証拠として仏壇を設けることが一般化してきました。そして、彦根藩主の強力な庇護のもとに、問屋制家内工業の形態とこれにともなう分業組織を完成し、彦根の城下町と中山道とを結ぶ重要点である 通称『七曲がり』で発展の基盤が整備されました。

明治維新による混乱期や、第一次、第二次大戦などの影響など多くの制約を受けましたが、戦後彦根仏壇同業組合が結成され検査制度を設けるなど品質の向上につとめ、生産は順調に推移しました。

その生産地域も彦根市全域に広がり、彦根の地場産業の一つとして大きく飛躍し現在に至っています。

七曲り仏壇街

３．伝統工芸品彦根仏壇とは

（３） 彦根仏壇の特徴

【特徴】

彦根仏壇は、豪華で厳かな雰囲気のある大型仏壇です。京風の影響を受けているため、落ち着いた高級感があります。

必要な道具や付属品の品揃えを考え、文書箱や台が一体となっているなど、日常の使用にもさまざまな工夫がなされています。

欅(けやき)の荒い木目を生かした木目出し塗りなど高級素材をふんだんに使った豪華な作りで、高級大型金仏壇の代名詞とも言われます。

【経済産業大臣指定伝統的工芸品】

＜伝統証紙＞　　＜検査合格証＞

左端にある、伝統マークを使った伝統証紙が貼られている製品は、経済産業大臣が指定した伝統的工芸品です。

これは、優れた日本の伝統産業を後世に残し継承するため定められたものです。

彦根仏壇は、仏壇仏具業界では初めて1975年（昭和50年）に通産大臣から伝統的工芸品の指定を受けました。

また、滋賀県内では、彦根仏壇、信楽焼、近江上布のわずか３工芸品のみが認定をうけています。

コラム

大阪城の天守閣の復興に貢献した“彦根仏壇職人”

彦根仏壇は、井伊家三十五万石の城下町で伝承されてきた仏壇で、鎧兜、刀剣などの武具師や細工師、漆工などの技術がそのまま生かされています。

その伝統の技術から、1931年の大阪城復興にて、彦根仏壇職人が、天守閣の全ての金具の製作にたずさわることとなりました。

天守閣は太平洋戦争の戦禍をまぬがれ、復興天守は現在も健在です。

３．伝統工芸品彦根仏壇とは

（３）彦根仏壇の特徴

高級金仏壇

金仏壇は、全体に黒の漆塗りがほどこされ、内部には金箔を張っている仏壇で、その荘厳さはまさに寺院のミニチュアといっていいものです。

蒔絵、彫刻、錺金具などの日本古来の伝統工芸の技法が集約されており、技巧による豪華さが特徴です。

伝統的な技法で作られた金仏壇は、分解が可能で全ての部位の修理が可能です。「子孫に良い仏壇を残したい」、「修理をしながら長い年月をかけて祀っていきたい」と思う「先人の想い」が創り上げた仏壇です。

金仏壇以外の仏壇の種類について

唐木仏壇	黒檀や紫檀のような銘木を使い、落ち着いた重厚な風合いの仏壇です。金仏壇と違い分解が、不可である事が多いのも特徴です。
現代(家具調)仏壇	洋風化した日本人のライフスタイルに合うようにデザイン性に富んだ仏壇です。自由にお祀りできるのが特徴ですが、これも金仏壇と違い分解が不可である事が多いのも特徴です。

四尺仏壇の産地

彦根市のある湖東・湖北地方は、仏教信仰の盛んな地域です。そのため彦根では、一間(いっけん)仏間をとる家が多く見られました。その歴史が、大型の「四尺仏壇の産地」としての彦根仏壇を育てあげました。

彦仏壇の4尺用以上の彦根仏壇の寸法表　＊合計6種類

名　称	仏　間	外幅	高さ	奥行
浜　型	1間用(約182cm)	147cm	176cm	90cm
4尺三方開き	1間用(約182cm)	123cm	176cm	79cm
4尺前開き	4尺用～1間用	115cm	176cm	79cm
3尺前開き	4尺用(約120cm)	103cm	176cm	79cm
2尺6寸三方開き	4尺用(約120cm)	98cm	173cm	76cm
2尺6寸三方開き	4尺用(約120cm)	91cm	173cm	76cm

（彦根仏壇事業協同組合資料から抜粋）

コラム

仏壇の品質と価格の違いについて

仏壇の価格は、下は数十万円から上は数千万の開きがあります。その違いは、素材の工程による品質の違いからくるものです。例えば、**木材では**檜や欅等高級木材の無垢材それとも合板(ベニヤ)を使用しているか、**金箔では**金箔の純度や手造り金箔か量産金箔か、**塗りでは**塗りの回数や天然漆手塗りか樹脂塗料のスプレー吹き塗装やなどの違いにより、品質と価格が大きく違ってきます。

安価な海外製造の仏壇

国内仏壇の型を海外に持って行き製造するため、一目見るだけでは国内産と区別がつきません。しかし、製造工程をみると。木材・金箔・塗りに使用する漆など素材、製造技法と手間のかけ方が違います。そのため、特に仏壇の耐久性には大きな違いがあります。

4．事業内容

【仏壇の木地(本体)の製造】

彦根仏壇は、専門工程七職（木地師、宮殿師、彫刻師、箔押師、蒔絵師、塗師、錺金具師）の職人がひとつひとつ手づくりで仕上げていきます。(株) 大橋木工所は、その中で木地師という仏壇の本体を製造する工程を担っています。

現在、規格品の仏壇はコストの関係からほとんど海外で製造されています。それゆえ、国内の職人がつくっている(株) 大橋木工所は、主に伝統的な技術を要求される仏壇の木地を製作しています。

仏間の大きさ等のお客様の事情による特注の仏壇や、伝統的な高級彦根仏壇を製作することなど、高度な技術が要求される仕事を担っています。

【仏壇のお洗濯（メンテナンス・修理）】

伝統的な技法で作られている彦根仏壇は、細かく分解でき、あらゆるパーツ(部位)をメンテナンスが可能です。このメンテナンスを仏壇のお洗濯といいます。

木地のメンテナンスは木地直しと呼ばれ、例えば次のようなことを行います。

- 柱のそりによる柱の取り替え
- 引き出しがぬけない、しまらないなどの調整
- ムシ食いやネズミがかじった部位の取り替え

こうしたお洗濯により、先祖が作った仏壇の何代にも渡り、受け継ぐことができます。

修理(部品の作り直し)

古い仏壇の構造の知識が必要です

4. 事業内容

【新しい仏壇の製造】

大橋賢嗣は彦根仏壇事業組合の若手有志と共に、「柒＋(ななぷらす)」というブランドを立ち上げ、彦根仏壇の技法を駆使して、現代のライフスタイルにあった仏壇を製作に取り組んでいます。

写真にある仏壇の試作品名は「Comfort（コンフォート）」といい、木地の工程だけで作られたものです。

【寺院の納骨壇等の製造】

彦根仏壇の技法を駆使して、寺院からの仕事を請け負っています。写真は、(株) 大橋木工所が製作した納骨壇(お墓と同じような役割を果たすもの)です。現在の納骨壇の素材の主流はアルミですが、寺院から依頼で、木製の納骨壇を当木工所が製作しました。

【神具の製造】

神道関連のもの作りでは、神棚や箱宮を製作しています。彦根仏壇木地製作の技能技法を活かして製作しています。

神棚
家や事務所などにおいて主に神道の神をまつるための棚

箱宮
神社の形を小さく作った、神棚に飾るもの

【間伐材の木工製品の製造】

彦根仏壇の技法を駆使して、木工家具などの製品を製作しています。

写真は、保育園から注文を受けた木工製品です。間伐材の無垢の木材を使い、釘を使わないほぞ組みの技法で製作しています。

間伐材・・森林の成長過程で密集化する立木を間引く間伐の過程で発生する木材。間伐作業を行う事により、森林の木々が健全に生育する。

【伝統産業の普及活動】

彦根仏壇事業協同組合の一員として、彦根市の伝統産業の普及活動を行っています。

写真は、左が「大学生の伝統産業弟子入り体験推進事業」、右は「小学校での体験講座」

5. 沿革

創業期　大橋萬次郎が創業

初代
大橋
萬次郎

大橋
洋家具店
の入口

大橋
洋家具店
の外観

1907年	初代　大橋萬次郎　犬上郡高宮町で木地屋創業	兄、富三郎より独立
1930年頃	長男・勘次郎　次男・孝次郎　三男・羊三郎と共に洋家具と仏壇木地を製造	屋号 大橋洋家具店
1945年	孝次郎・洋三郎戦死　家具をやめ仏壇木地製造	屋号 大橋仏壇木地屋

成長期　二代目　大橋勘次郎

設備面では工場の新築増築・倉庫の増築、人材面では従業員約20名の規模となる。仏壇業界そのものが成長期の時代。この時期に、2代目勘次郎、3代目和夫が彦根仏壇木地組合の組合長となる。

二代目
大橋
勘次郎

新築中の
工場と
二代目
勘次郎

増築中
の工場

1963年　8月	大橋萬次郎死去　二代目大橋勘次郎	屋号 大橋木工所
1964年　4月	大橋勘次郎　彦根仏壇木地組合　組合長	
1968年　9月	工場新築 建築延べ面積338.24㎡ 他19.8㎡	
1971年10月	工場増築　306㎡　計 664㎡	
1973年　2月	倉庫増築　286㎡	
1974年　6月	葉茂政宏(三代目和夫・弟)入社	
1975年　4月	大橋和夫　彦根仏壇木地組合　組合長	
1975年10月	彦根仏壇が業界初の通産大臣から伝統工芸品に指定される 大橋勘次郎 伝統工芸品産業功労者表彰	通商産業大臣 通商産業生活産業局長 伝統的工芸品産業振興協会

成長期　三代目　大橋和夫

三代目
大橋
和夫

高級仏壇製作の仕事が増えた時期。大橋和夫が三代目社長となる。またこの時期に大橋和夫は、彦根仏壇（木地部門）伝統工芸士に認定される。

1978年10月	大橋勘次郎死去　三代目大橋和夫	
1985年12月	大橋和夫　彦根仏壇（木地部門）伝統工芸士に認定される	伝統的工芸品産業振興協会 通商産業生活産業局長
1989年　2月	大橋和夫　彦根仏壇伝統工芸技術コンクール表彰（須弥壇）	全国伝統的工芸品仏壇仏具組合連合会　会長表彰

5. 沿革

成熟期　株式会社大橋木工所の設立

バブル期を経て、仏壇の需要が一段落する。
大橋木工所の職人が評価される。
葉茂政宏は彦根仏壇伝統工芸士認定、伝統工芸技術コンクールで表彰。
大橋和夫は、組合関係の役職を勤め上げることで彦根仏壇業界に貢献。滋賀県から「おうみの名工」に選出。
彦根市から彦根市伝統工芸品産業技術者として表彰。
四代目大橋賢嗣入社。

1989年 9月	株式会社 大橋木工所の設立	
1993年　8月	事務所新築　57.76㎡	
1993年12月	葉茂政宏　彦根仏壇(木地部門)伝統工芸士認定	
1996年10月	葉茂政宏 彦根仏壇伝統工芸技術コンクール表彰(御文章箱)	彦根地場産業連絡協議会 会長表彰
1997年　4月	大橋和夫　彦根仏壇事業協同組合　副理事長	
1998年10月	葉茂政宏 彦根仏壇伝統工芸技術コンクール表彰(創作みこし)	滋賀県中小企業団体中央会
1999年　4月	大橋和夫　彦根市議会議員当選	
1999年10月	葉茂政宏 彦根仏壇伝統工芸技術コンクール表彰(欅造り神棚)	全国伝統工芸品仏壇仏具組合連合会 会長表彰
2000年　4月	四代目　大橋賢嗣入社	
2001年　4月	大橋和夫　彦根仏壇伝統工芸士会　会長	
2001年　4月	大橋賢嗣　彦根仏壇事業協同組合青年部　入会	
2001年11月	葉茂政宏 彦根仏壇伝統工芸技術コンクール表彰(御文章箱)	全国伝統工芸品仏壇仏具組合連合会 会長表彰
2003年10月	大橋和夫　彦根市伝統工芸品産業技術者表彰	彦根市長
2004年11月	大橋和夫　日本伝統工芸士会　会長表彰	
2007年10月	大橋和夫　滋賀県中小企業団体中央会表彰	中央会会長
2009年　4月	「県ものづくり感性価値向上支援プロジェクト」に参加	
2009年11月	大橋和夫　おうみの名工　滋賀県知事表彰	滋賀県知事
2010年　5月	大橋和夫　彦根市議会議長に就任	
2010年　6月	上田のぶゑ　彦根市伝統工芸品産業技術者表彰	彦根市長

新たな活動の取り組み始める　(四代目大橋賢嗣)

大橋賢嗣が、伝統工芸士（彦根仏壇記事部門）試験に合格

2011年　4月	大橋和夫　彦根仏壇事業協同組合　副理事長	
2011年　9月	大橋賢嗣　国際見本市「リビング＆デザイン」出品	
2011年11月	葉茂政宏　彦根市伝統工芸品産業技術者表彰	彦根市長
2012年12月	大橋賢嗣　彦根仏壇木地部門伝統工芸士 試験合格	

6．当社の知的資産・・全体の概要

(株)大橋木工所は、伝統の木地師の技法で彦根仏壇製造の一旦の担うことにより、三代以上(50年以上)継承できる仏壇をお客様にお届けしています。

仏壇の製作を通じて、お客様に提供する価値は、『「先祖への感謝の心、祈りの心」を形にし、家族を始めとした「人と人の絆」を醸成する』という顧客価値だと考えています。

知的資産は、顧客価値を実現するための原動力となる「目に見えない真の強み」です。(株)大橋木工所の知的資産(組織資産、人的資産、関係資産) は次のよう分類になります。

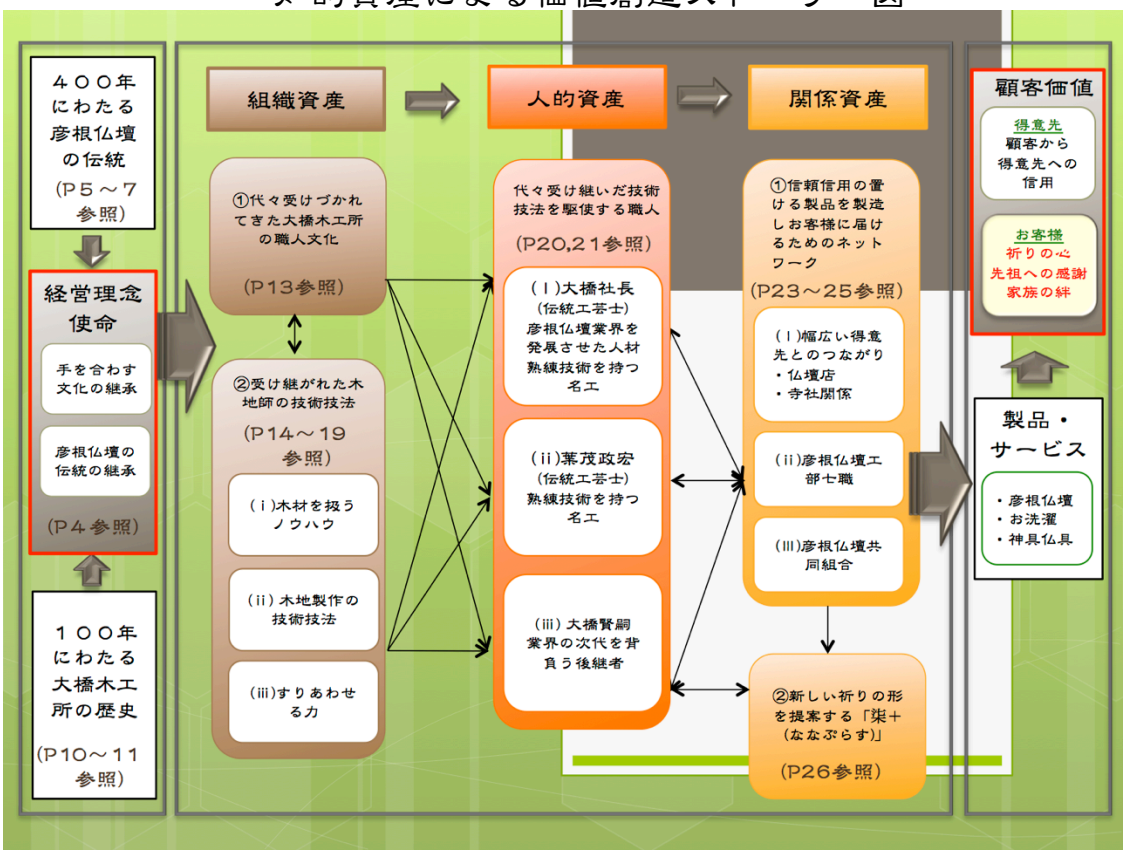
組織資産 (P13～19) ・・基盤となる知的資産
代々受けづかれてきた大橋木工所の職人文化

人的資産 (P20～21) ・・基盤となり知的資産を駆使する職人
高度な技能を持つ職人、業界のネットワークを保有する経営者、次代を背負う人材

関係資産 (P22～26) ・・組織資産、人的資産を活用する場
お客様に信頼信用のおける仏壇を届けるためのネットワーク

これらの知的資産をつなげ、下記の図表にある「価値創造ストーリー」にすることで、得意先とお客様への顧客価値を実現します。

知的資産による価値創造ストーリー図



知的資産の３分類

人的資産とは、「モチベーション」や「行動特性」、「経験」など人に帰属する資産のことです。その人が退職などで会社から離れると失われる資産です。

組織資産とは、「組織の柔軟性」や「データベース」、「企業文化」などを指します。人に依存することなく、組織として有している資産です。

関係資産とは、「関係会社のつながり」や「顧客との関係性」、「ブランド」など企業の外部に存在する関係者との間に築き上げた資産のことです。自社とそれらの関係者との関わりの中で、蓄積されている資産です。

①　組織資産　代々受け継がれた職人の文化

■特徴

仏壇に取って木地（本体）作成の工程は、建築に例えると「家の土台」をつくるプロセスにあたります。

木地の工程は、仏壇の完成直後には、木地（本体）に漆を塗られることにより、「どのような素材(木材)を使っているのか？」、「どのような技法で製作されていつのか？」が、全くわからない状態になっています。（「家の土台」と同じように、完成直後、その工程の出来不出来がわからなくなっています）

新品の状態では、見た目は同じようなものとなりますが、土台のしっかりしないものは、数年経つと、壊れたり、はがれたり、歪んでくるものなど耐久性の問題があらわれてきます。特に木地での耐久性の問題については、表面的な修復の対応をとることができず、仏壇全部を買い替えせざるようになることがあります。いわば、木地の工程の善し悪しは「彦根仏壇全体の評価」に直接つながってくるといえます。

(株)大橋木工所は、代々受け継がれた木地師の技術技法である「木材を扱うノウハウ・木地製作の技術技法・すりあわせる力」を駆使して、三代、四代受け継ぐことができる仏壇を製作しています。

■取組み

次ページ以降の「組織資産②受け継がれた木地師の技術技法」の項目で説明しています。

６．当社の知的資産・・（１）組織資産

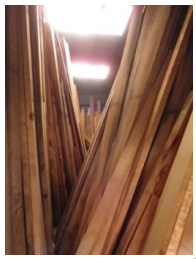
②受け継がれた木地師の技術技法

木地製作の工程は下記の図のように⑧つの工程で成り立っています。これは先人の木地師からから長い間受け継がれてきた木地師の技術技法です。この受け継がれた木地師の技術技法が(株)大橋木工所の会社全体の知的資産（組織資産）となっています。その組織資産は、【(ｉ)木材を扱うノウハウ】【(ii)木地製作の技術技法】【(iii)すりあわせる力】の３つの知的資産です。

■木地製作の工程

①材料選別

お客様、仏壇店の要望(予算等)に応じて、自然乾燥させた檜材、欅（けやき）、檜葉材、などの各種木材を選別します。



②「杖」の作成と木材の寸法取り

仏壇の設計図のあたる上の写真に「杖」を作ります。木材の寸法取りは、この「杖」一本だけで行います

寸法取りをした杖

杖の全体像

③粗木取り

粗木取りで、木材を大まかな寸法に切り出します。用途によって切り出す部分を選ぶ力量が要求されます

④木取り

粗木取りで、大まかに切断した木材を、パーツごとに細かく切り出します。

⑤パーツの加工

須弥壇、天井、引き出し等のパーツを加工します。組み合わせは全て「ほぞ組み」です

⑥はぎ付け

木地の表面に「はぎ」を張り付けます。この工程により塗装した後に美しい木目があらわれます。

⑦外回り組立て・調整

外回りを組み立てます。その際に外回りのパーツの微調整を行います。

⑧内回り組立て・調整

内回りを組み立てます。塗りの工程等の考えてパーツの微調整を行います。

②受け継がれた木地師の技術技法

（ｉ）木材を扱うノウハウ

５０年、１００年と承継が可能な彦根仏壇の木地製作には、材料の良い状態を引き出す為の「木材を扱うノウハウ」が欠かせません。

■特徴

（株）大橋木工所は、最初の段階の工程「木材の扱い方」を重視しています。「木材の乾燥の方法」が、その後の工程、完成後の仏壇の品質に大きな影響を与えます。

例えば、木材の乾燥が充分でないと、「木材のいるムシが生きたままの状態で仏壇になるため、後で木材を食べて穴を空ける可能性」があります、また「仏壇が完成してからも木材が乾燥するため、割れたり、歪んだりする可能性」があります。

木材を扱うノウハウは、50年以上の耐久性を持つ彦根仏壇の木地の基礎となります。

■取組み

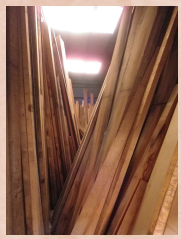
【木材の乾燥】

丸太からノコで挽いたばかりの木は、かなりの水分を含んでいます。一本一本性質の違うものを、じっくりと自然に乾かして、材料の良い状態を引き出します。

①天日干し

材木業者から仕入れた木材を天日干しします。
最低でも6ヶ月間を要します。

②倉庫での乾燥



天日干しした木材を、さらに木材倉庫で乾かします。
これも、最低でも6ヶ月間を要します。

【コラム・・木地製作に使っている主な木材】

(株)大橋木工所が木地製作に使っている木材は、「仏壇の耐久性」、「木目の美しさ」、「加工の安定性」等の基準により選んでいます。主に、「檜材」、「檜葉材」、「紅松材」を使用しています。

檜(ヒノキ)材

木目は通直で均質。狂いが少なく、加工性は良い。耐湿、耐水性が良く、保存性が高い。

檜葉(ヒバ)材

木目は通直で、年輪幅は均一である。肌目は中程度からやや緻密。加工性や材の安定性、腐朽性に優れる。

紅松(ベニマツ)材

木目は通直で、肌目は緻密。年輪幅の狭いものが多い。木質は軽軟で、加工しやすく、材の狂いは少ない。

②受け継がれた木地師の技術技法

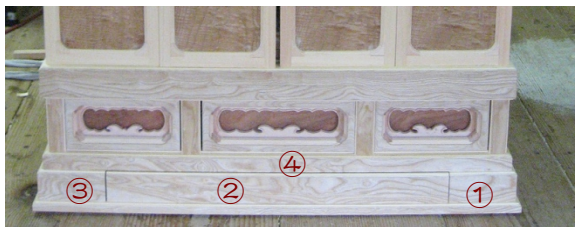
（ii） 木地製作の技術技法

(株)大橋木工所における特徴となる技術技法は、「(1)木取りの技法」「(2)ほぞ組の技法」「(3)パーツの加工の技法」「(4)はぎ付加工の技法」となります。

（1） 木取りの技法

木取りとは、大まかに切断した木材を、パーツごとに細かく切り出す工程です。美しい仏壇の木地を作る為には、個々の木材の木目や状態をつかんで木取りすることが重要です。仏壇の木目の美しさはこの工程によって決まります。同時に、この工程は木材を無駄なく切ることにとっても重要な工程となります。（株）大橋木工所は、先人からの木取りの技と知識を承継しています。

■事例



右の写真の①、②、③、④の部分は別々のパーツです。しかし仏壇を組み立てたときには、木目がきちっと合った状態となっています。これは熟練の木取りの技術に支えられています。

一本一本の仏壇の木取りは、一本ごとにそれぞれ違う木材の癖を把握し、数種類ある木地のパーツの材料を裁断する工程です。木は「生き物」なので、木取りの場所を間違えれば、決してイメージ通りの仕上がりとはなりません。(株）大橋木工所では、木材の癖（木目や材質等）に合わせて、仏壇のパーツ（部品）を木材から切り出すノウハウを持っています。美しい仏壇を製作するのは、木と木取りに関する深い知識と長年の勘を必要とします。

（2） ほぞ組の技法

ほぞ組みとは、木と木を組み合わせて留める技法で、仏壇の木地を組み立てます。ほぞ組の技法を使うことにより、仏壇の完成後であっても、木地の分解ができる構造になっています。

彦根仏壇の木地は全てこのほぞ組で作られており、釘を１本も使っていません。この構造により、何十年もの時間を経た仏壇に、部分的に傷んだところ出てきた時に、その傷んだ部分だけを取り出して取り替えることを可能にしています。
唐木仏壇や家具調仏壇、輸入仏壇にはこの技法が使われていません。

■事例

大型の彦根仏壇が、ほぞ組の技法により細部まで１本の釘を使わずに製作されています。

ほぞ組ではパーツに凹凸の部分を製作し。木と木を組み合わせます

②受け継がれた木地師の技術技法

（ii）木地製作の技術技法

(3) パーツ（木地の部品）の加工の技法

彦根仏壇の木地は、須弥壇、組子、引き出し、障子、内扉、脇戸、丸柱、ランセンなど何十種類ものパーツ（部品）から成り立っています。これらパーツ（部品)の加工は糸ノコ等の木工機械の作業から、小刀・ノミ等の手作業まで、多様で細かな技が要求されます。特に彦根仏壇の木地は、他の産地と違い須弥壇の製作も含んでいる為、(株)大橋木工所の職人は、装飾の細かな技術も保有しています。

■事例

須弥壇の加工
＊仏壇中央のくびれた台の部分

らんせんの加工
＊蒔絵を縁取る薄い板の枠

組子の加工
＊細い木材を縦横に組み合わせた部品

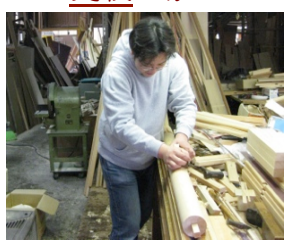
脇戸の加工
＊三法開きで両サイドで開く扉

中段の加工

障子の加工

本三方開(仏壇)のパーツの加工

丸柱の加工



（4） はぎ付加工の技法

彦根仏壇では、木地の表面に「はぎ」という薄い板を張り付ける「はぎ付加工」を行います。この工程により、塗装した後の木地の表面に、美しい木目があらわれるようになります。この塗装は「木目出し塗り」といい彦根仏壇の特徴で、木地製作のはぎ付加工がその土台となります。

■事例

はぎ付加工をした木地
木地とはぎが一体となるように加工されています

②受け継がれた木地師の技術技法

（iii）すりあわせる力

■特徴

「すりあわせる力」というのは、
七職の他の工程に合わせてもの作りする力、
仏壇店の要望をくみとってものづくりする力
という力です。

木地製作の工程は、仏壇づくりにとって、最初の工程です。そのため、木地製作は、木地工程後の「塗師」や「錺金具師」など工程を考えながら、もの作りをしなければなりません
このすりあわせる力は、木地製作に関する深い知識、他の製造工程の知識さらには長年の勘を必要とします。（株)大橋木工所では、伝統工芸士２名を擁しており、これらの深い知識と長年の勘、さらには他の工程の職人の仕事の個々のやり方まで熟知しています。

また、彦根仏壇事業協同組合における、定期的(月１度)な職人との交流会により、他の七職の職人と仕事を相互に理解し、「すり合わる力」を向上させています。

【コラム】手がけた仕事を通じて
５０年後１００年後の後世の職人に
技と心を伝える

彦根仏壇木地部門・伝統工芸士
(株)大橋木工所専務　葉茂政宏

伝統的な彦根仏壇は、先祖に感謝の心をこめて手を合わせ、代々子孫 に伝えていくという哲学のもと、職人の心と技を尽くして製作されています。

私ども大橋木工所の職人は、より良い物を作るために、材料、材質の見極めに力を注いでいます。そして加工の工程では、全神経を注ぎ、作り手の都合で簡単にするのではなく、一手間を加えることで、美しさ、使い勝手、耐久性が同時に成り立つ木地づくりに取り組んでいます。

そうやって私どもの手で作られた彦根仏壇は、50年後100年後には、後世の職人の手による仏壇のお洗濯（修復）を経て、代々と受け継がれてゆきます。

私どもは、50年後100年後を見据えて、その後世の職人が「受け継がれていく仕事は、どれほどのものか」ということを目の当たりにし、その技と心を受け取ることができるように、常に恥じることのない仕事を心がけています。

②受け継がれた木地師の技術技法
（ii）すりあわせる力

（1）漆塗りの工程(他の工程)とすりあわせる力

漆塗りの工程を考えて木地を製作する場合、漆の厚さを考えて寸法で作らなければなりません。

例えば、引き出しを作る場合、ぴったりと作ると、漆を塗ると表面がふくれて引き止しの開け閉めが困難になってきます。そのため、漆塗りの厚さを考えて、サイズを調整して木地を製作しています。また、塗りの方法、塗りの職人のやり方、乾燥の方法等も考えた寸法取りを行っています。

・塗りの方法については、職人(塗師)が手塗りがエアガンで塗るか、手塗で塗るかどうかで「寸法の調整」を行います。
・個々の職人(塗師)は人によって塗る回数が違います。個々の職人(塗師)の塗装回数の違いにより、寸法の調整を行います。
・塗りを乾かす工程で、室(ムロ)に入れて乾かす時には、室(ムロ)の中に入るような構造で製作しています。

■事例

引き出しの調整

漆塗をした後でも、引き出しがの開け閉めがスムーズにできるように、塗師に出す前に調整します

脇戸の調整

漆塗をした後でも、扉の開閉がスムーズにできるように、塗師に出す前に調整します

（2）要望を汲み取りものづくりする力

お客様の仏間の構造により、仏壇店から別注のサイズの仏壇の受注が入ることがあります。しかし、別注サイズですが、ほとんどの場合、「お客様の予算の都合上、宮殿等の他のパーツは、規格品を使えるように欲しい」という仏壇店からの要望があります。

その場合には、(株)大橋木工所に、「別注のサイズの木地」と「規格品の他のパーツ」のバランスがいいように「設計する段階」から「木地の完成」まで要求されます。

時には、お客様の仏間を実際に見て、室内の空間にバランスの取れた仏壇の木地を作ることもあります。

■事例 ＜仏間のリフォームに問題があり、難しい調整が必要だったケース＞

このケースでは、以前業者が行った仏間のリフォームがいい加減であったため、仏間の壁が倒れたようになっており、図面の寸法の幅と実寸が違っていました。
仏壇の調整をするだけではなく、仏間も修理することで、無事仏壇を納めることができました。

このように古い家では、建築図面の寸法と実寸が違っていることがあり、いざ仏間に納めようとしたら仏壇が入らないことがあります。木地の木を切ることで寸法の調整しますが、漆塗りが終わった仏壇の一部を切るため、神経を使う作業となります。

6．当社の知的資産・・（2）人的資産

代々受け継いだ木地師の技術技法を駆使する「３名の伝統工芸士」

（ｉ） 大橋和夫社長　伝統工芸士(彦根仏壇木地部門)

■特徴　彦根仏壇業界を発展させた熟練技術を持つ名工。

大橋和夫は、1988年に伝統工芸士に認定された46年の経験を持つ木地師です。特に、引き出しの錫杖・飾り付け等の細かい加工への繊細な技術を持っています。古仏壇の見識もあり、あらゆる木地製作に対応できる能力があります。さらには、彦根仏壇伝統工芸士会会長、彦根仏壇木地組合会長等を歴任し、後世の職人を育成するために尽力を尽くしています。

■実績

1975	彦根仏壇木地組合　組合長
1997	彦根仏壇事業協同組合　副理事長
2001	彦根仏壇伝統工芸士会　会長
2007	滋賀県中小企業団体中央会　表彰
2011	彦根仏壇事業協同組合　副理事長
1988	彦根仏壇伝統工芸士認定
1989	彦根仏壇伝統工芸技術コンクール表彰
1998	彦根仏壇伝統工芸士更新認定
2003	彦根市伝統工芸品産業技術者表彰
2004	日本伝統工芸士会　会長表彰
2009	おうみの名工　滋賀県知事表彰

（ii） 葉茂政宏　伝統工芸士(彦根仏壇木地部門)

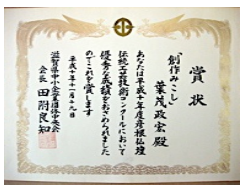
■特徴　熟練技術を持つ名工

葉茂政宏は、1993年に伝統工芸士に認定された37年の経験を持つ木地師です。

特に、釘を１本も使わない「ほぞ組技法」、釘を使わず直角に木と木と組み合わせる「あり組み技法」等の伝統的な木地製作の技法に優れています。

また、37年に渡る様々な仏壇の木地製作の経験により、特注等の難しい仕事への対応力にも優れています。

■実績



1993	彦根仏壇伝統工芸士認定
1996	彦根仏壇伝統工芸技術コンクール表彰
1998	彦根仏壇伝統工芸技術コンクール表彰
1999	彦根仏壇伝統工芸士更新認定
1999	彦根仏壇伝統工芸技術コンクール表彰
2001	彦根仏壇伝統工芸技術コンクール表彰
2011	彦根市伝統工芸品産業技術者表彰

2009年11月13日(金)しが彦根新聞web版に、大橋和夫社長が「おうみの名工」として紹介されました

伝統工芸士とは

伝統工芸士とは、全国の伝統的工芸品産地において、伝統的技術・技法に熟練した従事者の中から厳しい認定試験に合格した者に対して、経済産業大臣が認定する称号で、各産地を代表する最高の技術保持者、いわゆる「匠」です。

2008年度の全国の仏壇産地の伝統工芸士・木地部門の総人数はわずか４３名です。その中の２名が、当木工所の大橋和夫と葉茂政宏でした。

6．当社の知的資産・・（2）人的資産

（iii） 大橋賢嗣

■特徴　彦根仏壇最年少の伝統工芸士　（彦根仏壇木地部門）
業界の次代を背負う後継者

大橋賢嗣は、伝統工芸士大橋和夫を父に、伝統工芸士葉茂政宏を叔父にもつ彦根仏壇の若手木地師です。その二人の伝統工芸士に伝統の技法を学び、自らも2012年度の伝統工芸士試験に合格したことで、その技術が彦根仏壇業界で認められることとなりました（彦根仏壇の最小年の伝統工芸士です）。

大橋賢嗣は、現在の住宅事情やライフスタイルの変化により、仏壇が存在しない家庭が増えていることに大きな危機感を抱いています。

そこで、彦根仏壇事業協同組合青年部の有志とともに「新しい祈りの形」を創造する「柒＋(ななぷらす)」ブランドをを立ち上げ、新しい仏壇づくりに取組み始めました。

右の写真は「ＣＯＭＦＯＲＴ」という試作品です。宗教とは関係無しに、ひとり一人の心のなかにある「祈りの形」を、シンプルにお表した作品です。

大橋賢嗣は、一世代前の職人では持ち得ない「発想力」と「創作力」をもった伝統工芸士です。

試作品「ＣＯＭＦＯＲＴ」

中日新聞2011年9月9日掲載

仏壇〝イメチェン〟
洋風、若手職人が新作

■活動実績　柒＋(ななぷらす)での活動実績

2011年9月	国際見本市「リビング＆デザイン」に出品
2011年11月	第２回彦根仏壇:職の見本市展に出品
2012年2月～	「伝統産業弟子入り体験とコラボレーション」 黒壁硝子を取り入れた新仏具試作
2012年10月	国際見本市「IFFT interiorlifestyle living」に出品

メディアでの紹介：「柒＋(ななぷらす)」の活動

日本経済新聞
2011年12月26日　夕刊掲載

先輩の肖像
10年後の君たちへ
伝統の仏壇、デザインに革新の風
祈りの場、より身近に
仏壇の木地師 大橋 賢嗣さん（36）
学生時代 ボランティア 貴重な体験
翔

連載シリーズ：先輩の肖像
「10年後の君たちへ」

テレビ大阪「ニュースBIZ」
2012年1月17日放映

日本経済新聞連動企画
いまドキ関西
「祈りの場をより身近に」
(柒＋(ななぷらす)の一員として)

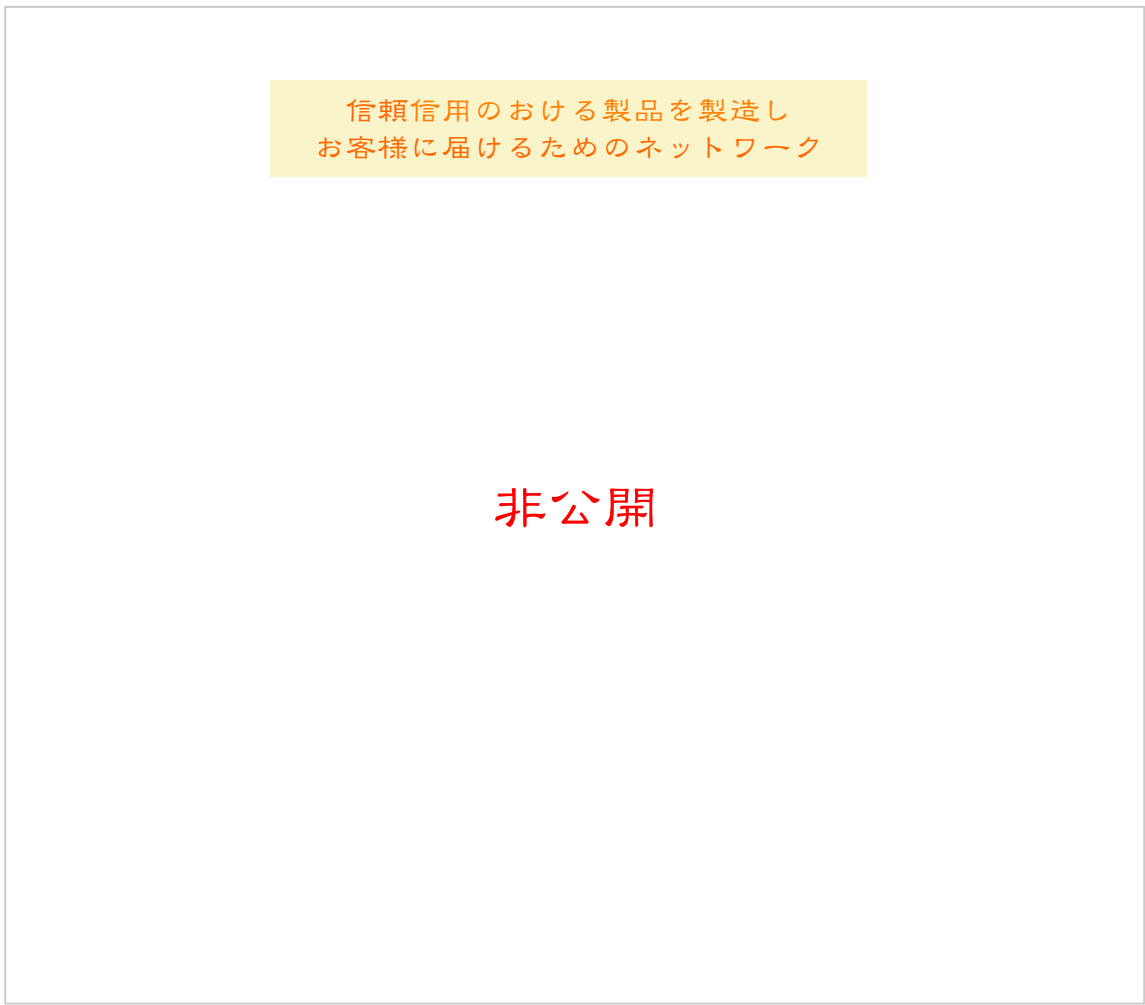
6．当社の知的資産・・（3）関係資産

①信頼信用のおける製品を製造し、お客様に届けるためのネットワーク

【概要】

非公開

【概要図】



6．当社の知的資産・・（3）関係資産

①信頼信用のおける製品を製造し、お客様に届けるためのネットワーク

（ｉ）幅広い得意先とのつながり

■特徴

得意先とのつながりの特徴は、(株)大橋木工所が彦根仏壇業界のほぼ全部の仏壇店と取引があることです。彦根仏壇業界において、工部七職の職人は、通常どこかの仏壇店の専属となり仕事を請け負っています。(株)大橋木工所は、特定の仏壇店の専属ではなく、独立の木地師としてあらゆる仏壇店からの仕事を請け負っています。

独立の木地師として仕事を請け負うデメリットとしては、「仏壇店は、通常、規格品等の仏壇については、優先して自社の職人に仕事をまわすことになります。そのため、(株)大橋木工所への受注では、特注などの手間のかかる仕事中心となり、さらには受注も安定しない傾向」があることです。

しかし、(株)大橋木工所は、積極的に特注などの手間のかかる仕事をあらゆる仏壇店からの請負ったことで、さまざまな要望に応える高度な技術を持った木地師という実績をつくりあげました。それにより、彦根仏壇業界における揺るぎない信頼・信用を確立しました。さまざまな得意先からの手間のかかる個別の仕事を請け負ったことにより職人の技能が磨かれ、伝統工芸士２名を輩出ことにもつながりました。

■実績

＜彦根仏壇業界の得意先＞

大橋木工所には、２人の伝統工芸士を含む技能に優れた３人の職人が存在しています。そして納期を詰めるために、同じ品質で同時に様々なパーツを製作できる「職人３人の分業体制」をとることが可能です。その体制が取れることで、大仏壇・小仏壇・特注仏壇までの幅広い注文を、様々な得意先から依頼されています。

極楽寺(奈良)納骨壇

＜彦根仏壇業界以外の得意先＞

ほぞ組み加工等の日本の伝統的な木工の技法を保有していることに加えて、彦根仏壇業界で揺るぎない信頼・信用を確立したことにより、その伝統の技法を活用して仏壇業界以外からの仕事も請負っています。

・釘を使わない技法で製作した間伐材の無垢の家具（保育園）
・納骨壇（奈良極楽寺）

神社の灯籠

四尺壇(大型仏壇)

四尺壇(大型仏壇)

浜壇四尺壇(大型仏壇)

特注仏壇

特注仏壇

小仏壇

保育園の木工家具

①信頼信用のおける製品を製造し、お客様に届けるためのネットワーク

（ii）彦根仏壇・工部七職のネットワーク

■特徴

工部七職とは、彦根仏壇の江戸時代からの分業体制を引き継ぎ、七部門の匠の技の専門職によって、１本の集大成された仏壇が完成されるシステムです。

彦根仏壇の工部七職で、伝統工芸士に認定された職人は４５名(平成23年2月25日現在)となっています。これは日本全国の仏壇産地では最多の人数となっています。彦根仏壇工部七職の職人のレベルの高さと、それら七職の職人がつくる仏壇の品質の高さと工芸品としての価値を証明しているといえます。

■取組み

工部七職の匠の技の工程

七つの工程を、専門の職人の伝統技法による匠の技で、仏壇を造り上げます。

①木地師（きじし）

厳選された木材で仏壇の本体を作ります。仏壇作りの最初であり、大切な仕事です。

②宮殿師（くうでんし）

こまかい部品を手作業で作り、各々組立式に屋根を作ります。

③彫刻師（ちょうこくし）

図柄を選定し、桧・松などの木材に、のみ・小刀を使用して手彫りします。

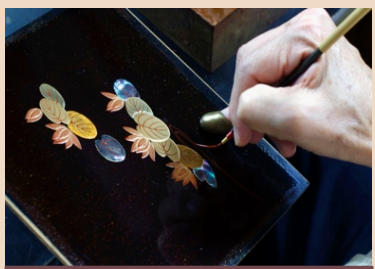
④錺金具師（かざりかなぐし）

銅、真鍮板にタガネを使用して手彫をし、メッキ、色付けかエをして仕上げます。

⑤塗師（ぬし）

白木地に下地加工をし、数回うるしで中塗りした後、天然精製うるしを上塗りします。

⑥蒔絵師（まきえし）



漆などで下絵を描き、その上に金粉、銀粉、貝などを蒔き、加筆して仕上げます。

⑦金箔押師（きんぱくおしし）

箔押しうるしをのばし、ふきあげた後、純金箔を1枚づつ張り付けます。

6．当社の知的資産・・（3）関係資産

①信頼信用のおける製品を製造し、お客様に届けるためのネットワーク

（iii）彦根仏壇事業協同組合のネットワーク

■特徴

仏壇業界は、仏壇の品質・産地表示に関して、明確な取り決めがなく、その表示は、全国の仏壇店の自己責任に委ねられています。このため、店によって表示が異なり、品質・産地表示において疑わしいものが見受けられることもあります。

そのような状況の中、彦根仏壇事業協同組合は早くから独自の基準を設け、品質表示の明確化に取り組みました。そして、彦根仏壇の品質とそれを製作する職人の技術の信頼性というブランドを構築しました。

(株)大橋木工所の信頼・信用力は、そのような彦根仏壇事業協同組合が築き上げたブランド力と密接な関係があります。

■取組み

彦根仏壇事業協同組合では、お客様が安心して仏壇を購入していただくために、「伝統的工芸品」、「組合合格壇」、「産地推薦品」という三つの仏壇の品質基準を明文化しています。

	伝統的工芸品	組合合格壇	産地推奨品
木地	天然材(桧・杉・松・欅・栓等) 組合認定の合板一部使用も可 産地内製造	伝統的工芸品に準じる 合板、突板合板も一部使用 産地内製造	組合合格壇に準じる 合板、プリント合板 外国製も使用
宮殿	天然材、妻屋根付総手先、桝組 産地内製造	伝統的工芸品に準じる 外国製も一部使用	組合合格壇に準じる 外国製も使用
木彫刻	天然材で手彫りによる丸彫、重彫、付立彫 概ね産地内で製造	伝統的工芸品に準じる 国内産地 外国製も一部使用	合合格壇に準じる 外国製も使用
錺金具	真鍮、銅板の手彫金具で毛彫・浮彫・地彫・スキ彫 三段・柱は電鋳金具を使用可 手彫金具は産地内で製造	伝統的工芸品に準じる 国内産手彫金具の他、電鋳金具、プレス金具も一部使用	組合合格壇に準じる 外国製も一部使用
塗装	堅地、砥の粉下地。立塗、呂色塗 天然漆を刷毛で手塗 小物については樹脂塗料のスプレー塗装も一部使用可 産地内製造	伝統的工芸品に準じる 樹脂塗料のスプレー塗装も一部使用	組合合格壇に準じる ウレタン・カシュウ等樹脂塗料のスプレー塗装も使用
金箔押	金箔(純度95.24%以上)、箔押漆、純金粉(純度95.24%以上)、 箔箸を使って手押し 産地内製造	伝統的工芸品に準じる 箔押漆、天然樹脂塗料も一部使用	組合合格壇に準じる 機械箔押も一部使用
蒔絵	天然漆、顔料、金粉、蒔絵用泥 手描き 産地内製造	伝統的工芸品に準じる 国内産であること	組合合格壇に準じる 写真製版、転写蒔絵 外国製も使用
組立	彦根産地で製造されていること		

＜伝統工芸品＞

伝統証紙

この**伝統証紙**が貼られている製品は、経済産業大臣が指定した伝統的工品です。これは、優れた日本の伝統産業を後世に残し継承するため定められたものです

表示:焼印(丸型)、検査合格証、伝統証紙、産地証紙

＜組合合格壇＞

検査合格証

この検査合格証が貼られている製品は、伝統的工芸品に準ずる仏壇として厳しい品質検査に合格したことを証明するものです

表示:焼印(角型)、検査合格証、産地証紙

＜産地推薦品＞

産地証紙

この**証紙は**、彦根仏壇事業協同組合が推奨する『産地証紙』で、この証紙が貼られている製品は、彦根地域で製造された仏壇であることを組合が証明するものです。

表示:産地証紙

6．当社の知的資産・・（3）関係資産

②新しい祈りの形を提案する「柒＋(ななぷらす)」のネットワーク

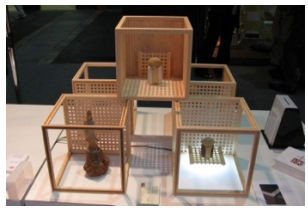
■「柒＋(ななぷらす)」が設立された背景

近年、お客様のライフスタイルの変化、住宅事情により、彦根の大型金仏壇の需要が減少して います。また、先祖に対する意識の希薄化により、仏壇をおかない家も増え、「手を合わせる機会そのもの」が無くなってきています。

さらに彦根仏壇業界は、バブル崩壊以降、仏壇価格の低下傾向の影響を受け、規格品等は海外製造が主流になっています。それが、彦根仏壇の職人の仕事の減少に拍車をかけています。

このままでは最悪の場合、七職にうちどこかの職で彦根仏壇の技法が途絶える可能性が出てきます。七職の中で、どこかの職が途絶えることは、伝統的な彦根仏壇を継承も途絶えることになります。

2011年、そのような状況に危機感を覚えた彦根仏壇事業協同組合の大橋賢嗣を含む青年部の有志が、「柒＋(ななぷらす)」を立ち上げました。



2011年　6作品出品
リビング＆デザイン展

■特徴

現在、「柒＋」は、「新しい祈りの場」としての新しい仏壇を創作することにより、「手を合わせる機会」の提供、さらには「柒＋」で初めて仏壇に関心を持った方に「彦根仏壇の価値」を伝えるための活動を行っています。

2011年の立ち上げ以降、「新しい祈りの場」としての新しい仏壇の試作、その発表を行い、マスメディア等から注目を浴びています。

■実績

2011年度：日本経済新聞・毎日新聞等の新聞８紙(８回)

2012年度：朝日新聞、京都新聞等の新聞８紙(15回)　テレビ大阪(1回)　・ＮＨＫ大阪(３回)

活動履歴

2011年9月	国際見本市「リビング＆デザイン」に出品
2011年11月	第２回彦根仏壇:職の見本市展に出品
2012年2月～	「伝統産業弟子入り体験とコラボレーション」黒壁硝子を取り入れた新仏具試作
2012年10月	国際見本市「IFFT interiorlifestyle living」出品

＜「伝統産業弟子入り体験」：黒壁硝子を取り入れた新仏具試作＞

仏具新デザイン 学生たち提案へ
彦根で「伝統産業弟子入り体験」
黒壁ガラス取り入れ
新たな仏具の提案に向けて彦根仏壇を見学する学生たち（彦根市・岸本商店）

日本経済新聞・中日新聞・京都新聞などにとりあげられました

学生とのコラボレーション「黒壁ガラスを取り入れた位牌の試作品」

2012年２～３月に、成安造形大学２～３年４名と滋賀県立大学生活デザイン学科４年１名大学院生２名が、「伝統産業弟子入り体験」に参加しました。その一貫として、「新しい祈りの場」を提供するにあたり、学生のアイデアとのコラボレーションによる黒壁ガラスを使った新仏具を試作しました。

学生のデザインのプレゼンテーション

7．将来展望

（1） 当社の将来のビジョン （5年後に目指すべき姿）

【定性的なビジョン】

さまざま取組みで「手を合わせる文化」を広め
「手を合わせる形」を提供することを通じて、
（株） 大橋木工所の新たな成長の実現と
伝統の彦根仏壇の継承者としての役割を果たす。

【定量的なビジョン】

１年後 （2013年度末）	３年後 （2015年度末）	５年後 （2017年度末）
	非公開	

お客さんの想いを形にした仏壇を創る！

【コラム】 四代目 大橋賢嗣の夢

(株)大橋木工所四代目大橋賢嗣には、仏壇職人として次のような夢があります。

それは、お客様がどのようなお気持ちで仏壇に向かわれるかを直接うかがって、そのお気持ちを反映したオリジナルの仏壇を作って差し上げることです。

例えば、お客様の事情で、先祖が残してくれた大きな家からマンションに移り住む際に、仏壇も買い替える必要が生じる場合です。「先祖が残してくれた家の痕跡も無しに、マンションに移り住むのは心苦しい。新しく購入する仏壇び、家を残してくれた先祖への感謝の想いを残せないか？」というお気持ちがお客様の心の奥にあるときに、仏壇職人の技能をもってお客様の想いに応えることができると考えています。

具体的には、大きな家の柱や梁(はり)など一部の材料を組み込んで仏壇を作ってさし上げることができます。そしてマンションに移っても、子供や孫たちと共に仏壇に手を合わせる際に、「この仏壇は、亡くなったおじいちゃんが家族にために建てた家で使っていた木でつくっているよ。おじいちゃんは仏壇から私たちを見守っているよ」という言葉をかけることができます。親族みんなが集まった時に、仏壇に手を合わせることで、家族のストーリーを共有し、黒塗りの四角い箱の仏壇が、身近なものになります。

その夢の実現のために、大橋賢嗣は日々修行を続けています。

7．将来展望

（2） 今後の事業展開の方向性

「将来のビジョン」を実現するための「今後の事業展開の方向性」を、以下の①～③のプロセスを通じて導きだしました。

① （株） 大橋木工所の現況

非公開

② （株） 大橋木工所を取り巻く外部経営環境の分析
「過去」～「現在」～「将来(５年後)の予測」について

非公開

③「将来(５年後)のビジョン」、「現在の知的資産」、上記①②を踏まえての「今後の事業展開の方向性」の策定

非公開

（3） 将来のビジョン到達までのロードマップ(将来予想図)

上記（2）で導きだした「今後の事業展開の方向性」を具体化し、１年目～３年目～５年目のロードマップ(将来予想図)と、その期間ごとの目標を策定しました。

非公開

（4） 今後の事業展開への取組み

今後の事業展開への取組みについて、多面的に検討し策定しました。

具体的には、まず、P２８の(２)～(３) で策定しました「今後の事業展開の方向性」「目標(1年目)」とに沿い、以下の①～③の項目を検討しました。そして、現実に事業を推進するために必要な「主要成功要因(CSF)：ここでは目標(1年目)を達成するための具体的な取組み」、「重要業績評価指標 (KPI)：ここでは目標(1年目)の達成度合いを計る定量的な指標」を策定しました。

① 今後の事業展開に活用できる「知的資産」

（今後の事業展開による「知的資産の価値創造ストーリー図」から）

非公開

② 課題

非公開

③ 課題解決の方向性

非公開

④ 課題解決のための取組み

（「主要成功要因(CSF)」と「重要業績評価指標 (KPI)」の策定）

非公開

主要成功要因　(CSF)：目標を達成するためになすべきこと、取り組むべきこと
重要業績評価指標 (KPI)：目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと

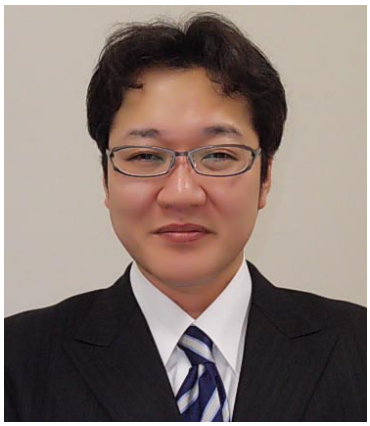
【会社概要】

社名	株式会社　大橋木工所
代表取締役	大橋和夫
創業	1907年
設立	1989年9月
資本金	1,000万円
事業内容	仏壇の木地製造・お洗濯(修理) 寺院の仏具の製造 神具の製造 無垢材の木工製品の製造

【所在地】
株式会社　大橋木工所
〒522-0201　彦根市高宮町2938
TEL：0749-28-0171
FAX：0749-28-3311
E-mail：ka-oh@khaki.plala.or.jp
URL：http://www.ohashi-woodworks.jp

近江本線(滋賀県)・高宮駅から徒歩約13分

１０．作成者より



「先祖を敬い手を合わす文化」を残していくために

株式会社大橋木工所
四代目　大橋賢嗣

私がお仏壇の木地師になり、１２年の年月が流れました。
住宅事情の変化や景気の低迷により、従来の大型仏壇が売れない時代になりつつあります。
時代の流れで従来の仏壇がなくなりつつあるのは仕方ないことなのかもしれませんが、日本人が今まであたりまえのように行っていた「先祖を敬い手を合わす文化」が、仏壇のないご家庭からなくなりつつあることは、寂しいことに思われます。
また、需要の軽減により仏壇を作っていた職人の数も年々減少しています。このままでは近い将来、日本古来の仏壇の伝統が途絶えてしまう可能性もあります。
しかし、ただ時代の流れのせいにするのではなく、現代の生活にあった新しい祈りのかたちを提案していくことも必要だと思います。そのなかで日本古来の伝統的大型仏壇のすばらしさを感じてもらえれば、嬉しく思います。
現状はベテラン職人さん達が持ちこたえてくれていますが、私を含めた次の世代の若い職人や若いご家庭の方達が、仏壇の前で先祖を敬い手を合わす文化を守っていかなければ行けないと考えています。
そのために、作り手として日々精進し、伝統を守りながらも、よりよい物を作れるよう進化させ、この素晴らしい伝統を残していけるように頑張っていきたいと思っています。

１０．問い合わせ先

株式会社大橋木工所　大橋賢嗣
電話　0749-28-0171
e-mail　ka-oh@khaki.plala.or.jp

①知的資産とは

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の向けの資産であり、企業における競争力の源泉である、人材、技術、技能、知的資産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には〈現れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します・

②知的資産経営報告書とは

よって「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として（目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成しています。

③本報告書ご利用上のご注意

本知的資産経営報告書に掲載されまいた将来の経営戦略及び事業計画並びに附帯する事業見込などは、すべて現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて掲載しております。そのため、省らに渡り当社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき実用が生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施または実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来にわたって保証するものではないことを、十分にご了承願います。

④作成支援・監修専門家

本知的資産経営報告書の作成に当たっては、本書記載内容につき、その客観性を維持・向上さえる趣旨から、次に掲げる専門家のご支援・ご監修を賜りました。

中小企業支援ネットワーク機関
　滋賀県中小企業団体中央会 中嶋 和繁 氏
中小企業支援ネットワーク強化事業登録専門家
　中小企業診断士　五十田 光宏 氏　　石川由美子 氏